

～ 阿佐谷図書館 実習報告 ～

都立西高校 1年生のレポートです。

7月4日（火）～7月6日（木）の3日間、図書館の仕事を体験しました。

☆取り組んだ仕事と感想☆

交換便

在館

おはなし会準備

書架整理

配架

本の修理

レファレンス



・図書館という自分にとってかなり身近なものであっても、仕事をする側としてかかわってみると、普段自分が見ているよりもずっと多くの作業があり、また利用する人々のための様々な配慮や工夫がされているということを知ることができた。また、今回自分がさせて頂いた作業は、図書館で行われている作業の本の一部に過ぎないだろうと思うが、それでもかなりの集中力を要するものだったと感じた。今までは、今日のように一日の中の長い間ずっと何かに集中し続けるという経験もそこまでなかったので、今日身を以て図書館の中でだけでなく、全体として働くということの大変さをすごく感じた。このように、大変な仕事の中、職場体験を受け入れて下さった阿佐谷図書館の皆さんに感謝したい。

☆杉並の図書館について、どう思う？☆



・あるととても助かる。近いし。今までは学校図書館もあるので一般の図書館はほとんど利用していなかったのだが、やはり蔵書数をはじめ多くの点でメリットを感じたので、今後はぜひ学校の課題の調べ物のためなどに利用させて頂きたいと思う。



☆ オススメの本を教えてください ☆



『さよならの言い方なんて知らない』(架見崎シリーズ 全8巻) 河野 裕/著(新潮社)

大まかな内容としては、主人公たちが特殊能力を使い争っている世界で生き残るために奮闘するという物語で、それだけならよくある異世界転生ものと大差ない様に思える。しかし、そこに河野裕氏の世界観が加わることで、とても考えさせられる内容となっている。

例えばこの物語の主人公は、かなりの臆病者であり、なおかつ戦う能力を持たない。それに、能力をある程度自由に選択できる「架見崎」で、主人公は自らその選択権を捨てた。よって、弱い能力が覚醒したり、隠しチートステータスで一発逆転などの王道な展開は起こり得ない。また、そもそもこの「架見崎」という世界では能力を取得、強化するための「ポイント」の所持量が重要であり、ポイント差をくつがえすことは、ほぼ不可能という世知辛いものとなっている。しかし、この世界には多くの戦争をするには異質と言えるルールがあり、すべての住人は他の世界から送られてきた人々で、元からの住人はいない。また絶対的な管理者によって支配されている。そんな世界でカギになるのは、戦う力と引きかえに主人公が得た「ある能力」である。

